

伊豆市立中伊豆中学校 学校便り

中 中 通 信

校訓 努力は必ず報われる

3月号

文責 樋口正則

中伊豆中学校 ここに在り

～令和元年度 最後の全校集会 生徒たちへ～

校長 相馬美樹子

世の中には、正解のない問題が起きる時がある。
コロナウイルスという見えない菌と戦う世界の非常事態。

突然、断ち切られた日常。そして明日があると思っていた学校の日々。
「当たり前」に思える日々や友達がいかに貴重なものか。
3年生は、中伊豆中を 笑顔があふれる学校に 変えた。
今年度は、全校での、卒業式や 修了式も 離任式もない。
しかし、記念に残る式は、できないけれど 記憶に残る式は、できる。

突然の別れに、精一杯、感謝の思いを込めた1、2年生の姿。
まさに3年生の先輩たちが創りあげた「一生懸命はかっこいい」伝統を引き継いだ。春には立派な最上級生と2年生が誕生するね。

中伊豆中は小さな学校です。でも田方一の学校です。
思いやりに溢れ、仲間を思い、教室には生徒と先生の笑顔。
思い出は、幸せな記憶になり勇気を与えてくれる。

中伊豆中を旅立つ3年生に全校生徒と全教職員の思いが一つになった、最後の時間。どこにいても何をしようかと、仲間と共有した時間を忘れず宝物として愛しんでください。中伊豆中学校の学校教育目標は「夢を叶える」
いつか誰もが苦しい時こそ、思い出して欲しい。後輩の植えた花壇の「叶える」という花文字を。桜が咲く季節に。

やがて中伊豆中は新中学となっていくます。

でも私たちの心に 中伊豆中学校は永遠に不滅です。

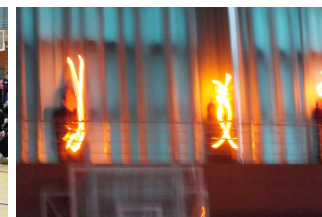
本年度、最後の登校となった令和2年3月2日。3年生義務教育最後の国語の授業、山崎先生の教科書を語る愉しそうな声での「少年の日の思い出」の人生観と生徒の素直な反応にひきこまれた。「学校は失敗が許される場でありたい」と常々思い、生徒のありのままのよさを認める教育をチーム中伊豆として軸に据えてきた。そして中学時代に学んだ「方丈記」を思い浮かべた。中伊豆中校歌に歌われる大見川を臨時休業中に地域巡回をしながら眺めた。川は流れ、泡は浮かんでは消えていくが、私たちが愛し、慈しんだ生徒の中学時代は、心に永遠に刻まれていくことを願っている。八幡中学、白岩中学の卒業生が、同窓会のために校歌の歌詞を確かめたいと来校された。建物は変わっても学んだ記憶は人を豊かにする。

「中伊豆中学ここに在り」学びを翼にかえて子供たちが良き社会人になっていく事を願います。地域の皆様、保護者の皆様のご支援ご協力に深く感謝いたします。

最後の全校集会

臨時休業の決定を受け、最終登校日。1・2年生の「卒業生に感謝の気持ちを伝えたい!!」「卒業生を応援したい!!」という思いで、全校一丸となって臨時の集会を開きました。元々3年生を送る会として企画されていたのですが、特別編成で実施しました。急遽実施することになったため、練習時間も準備する時間もほとんど無く、しかも計画していた内容と大きく異なる形での実施となりました。そのような中でも、1・2年生は、3年生一人一人の名前を呼びながらのエールや、3年間の思い出ビデオ等、精一杯の気持ちを込めて行うことができました。最後の写真撮影では、3年生も「後輩に中伊豆中を安心して託せる」という表情でした。

学校は、生徒一人一人が主役です。これからも主役を輝かせるために、私たち大人は支えていきたいと思います。



小中合同あいさつ運動

これまでも、何度か紹介してきましたが、本校と中伊豆小学校は、静岡県小さな親切運動本部より2年間の「あいさつ運動推進校」に指定されています。これまでもそれぞれの学校で様々な取り組みをしてきましたが、その締めくくりとして中学生が中伊豆小学校へ出向き、合同であいさつ運動を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、計画された5回のうち2年生による2回の実施となりましたが、国道沿いと昇降口に分かれ、小学生と一緒に元気よく「おはようございます」とあいさつを交わしました。来年度も様々な取り組みを行い、あいさつの響き渡る中伊豆地区を目指していきます。



先生方から一言いただきました

チーム中伊豆
チーム相馬より

- ・「一度は中伊豆に勤めるといいよ」と、何人かの先輩教師に言われてきました。3年前その憧れの中伊豆中学校に講師として赴任して、本当に言葉通り、いや、それ以上でした。純朴でまっすぐで飾り気がない子供たち。その子たちを育んだ保護者の方、いつも笑顔で接してくださいました。最高の人たちでした。子供たちと勉強しているとき、部活動で汗を流しているとき。いつもその向こうに保護者の方や家族がいることを意識していました。この中伊豆中で教鞭を執ることができて、心から感謝しています。今度は私が後輩教師に言います「一度は中伊豆に務めると良いよ」 **松井清高**
- ・生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、今年も学校給食に関わってくださいありがとうございました。センター方式の給食で、5校を担当していますが、所属の中伊豆中学校に元気をもらって頑張りました。全力で、おいしく楽しい給食になるようやってきましたが、一つだけ心残りが…それは、3年1組の卒業リクエスト給食。実現しようとする業者さんに協力してもらい手配しましたが…、出せずじまいです。申し訳ない。でも、健康でいてこそ給食もおいしくいただけますね。中伊豆の給食に関わってくださる人たちはとても温かいです。今年もありがとうございました。来年度もお楽しみに。 **青島素晴**
- ・目に見える結果も大切。でも結果を出すために必死に努力するその過程がとても大切。頑張った人にしか見えない景色がある。頑張った人にしかない宝物がある。それを皆さんなら見つけられるはず。すぐじゃなくても良いんです。いつかきっと見つけられるから。 **丸山美穂**
- ・「人生は何があるか分からない」中学生で経験しましたね。これからもいろいろなことがあると思います。自分の思うように行かないときも、少しだけ頑張ってみるとおもしろい何かがありますよ。 **司書 田上佐智子**

- ・学校が休校になり時間を自由に使えます。有意義にするもしないも自分次第。24時間を上手に使っていきましょう。 **佐々木千尋**
- ・中伊豆中の皆さん、これからも元気に明るく、誇りを持って自分の夢に向かい合って前進してください。いつでも応援しています。 **荒川利津子**
- ・中伊豆は、大自然に囲まれ空気がおいしく健康に良いところですね。生徒たちもこの大自然に負けずいつも元気に生活し、驚くばかりです。生徒たちから元気をもらっているなあと感じる今日この頃です。 **秋山浩乃**
- ・私には、両親・祖父母・兄弟姉妹と多くの方がいます。一人ではないのです、その中で成長しています。今の自分を大切にすることは、周りの多くの人を大切にすることだと思います。そして、困ったときは誰かに相談してください。周りには様々な立場の方がいます。自分に合った人に頼って良いのです。明るく元気な中伊豆っ子。

スクールソーシャルワーカー前田みどり

- ・ある3年生から、「山崎先生は職員室で何の仕事をしているの？。いつもPCとにらめっこしている。」と言われましたやはり、学校の先生って生徒のそばにいてこそやりがいがあるのかもしれませんが。PCとにらめっこして、ますます目が悪くなってしまいました。みなさんもスマホ・PCのやり過ぎには注意しましょう。 **山崎 裕**
- ・新任教師として、1人の人間として日々学び、反省する1年でした。また、生徒の成長を一番近くで支えることのできる教師という仕事の素晴らしさを実感する1年もありました。残りの1ヶ月をみなさんと過ごすことができず非常に残念ですが、ピンチはチャンス、来年度に向けて今年の反省を糧に準備していこうと思います。保護者の皆様、生徒の皆さん1年間ありがとうございました。4月6日、皆さんが元気に登校できることを祈っています。 **遠藤尚寛**

スクールカウンセラー竹内秀美

- ・追いつくには要諦。逆風こそチャンスだ!!。ヨットを操るとき、追いつくのが一番転覆する危険が高い。逆風の時、風を読み・風を探し・風に乗る、右に左に進路を変えながらゆっくりではあるが目標に向け着実に進む。ヨットのレースで勝敗を決めるのは逆風の時。人生も一緒、右に左にいろいろな視点からいろいろな道を探し、ゆっくりではあるけれど着実に前へ進む。逆風こそ人を一回りも二回りも大きくしてくれる。 **樋口正則**
- ・皆様のおかげで、一年間笑って楽しく過ごすことができました。本当にありがとうございました。 **落合孝弘**
- ・こんなふうを送り出すはずではなかった。こんなふうにお別れするはずではなかった。本当に残念でたまらないけど、それ故に私は君たちを忘れないだろうと思う。元気いっぱい食欲旺盛、加えてフレンドリー、愛すべきキャラクター揃いの君たち。人生にはこのような予想外のことが起こってしまうと言うことを、中学生で経験してしまった君たち。一つ願うことは、苦しいこと不都合なことからも学び、成長の糧にできる強さを持てますようにという。その強さは君たちが望む未来へ運ぶ翼となるでしょう。 **古谷敦子**

- ・令和の時代、最初の卒業式、節目の時忘れられず思いを残すとき、未来の礎になるといいでしょう。 **山田清直**

